

今後の Facebook 活用に関する検討資料

【前回（11月7日）協議事項の確認】

（1）Facebook（以下「FB」）の狙いと課題

- コミュニティへの参加に積極的でない「若い世代」などへの情報発信と人材発掘
- 日の里地区の新しい広報手段を提供する（実験する）

（2）他の広報手段と FB の比較

ホームページ ⇒ 検索が必要	FB 紙幅・更新時期の制約なく、スマートフォンの
紙媒体 ⇒ 最新情報が届きにくい	利用者などには「ロコミ」式で広がりうるが、そ
回覧板 ⇒ 各家庭に情報が残らない	れ以上の広がりや積極的参加に繋がるかが課題。

（3）当面、試験的運用をする。名称は「日の里ニュース」（現在、検索で上位に表示される）

- ① 投稿への経路：コミセン事務局から「紙媒体のデータ（画像）」などをもらい、掲載。
- ② 投稿内容の範囲：町内会の「回覧板」（任意提出）の他、市民団体のイベント情報など。
- ③ 投稿担当者：伊藤事務局長→青谷、上野 ※「住民有志が運営」している見せ方。

【今後の課題と計画について】

（1）活動実績

- 「画像＋文章」型の記事 15 件（その他、トップページ画像変更の記事が 2 件）。
⇒ 月 6 件程度の更新頻度、「いいね！」数は 5～10 程度。
⇒ 内容面では「町内会」の利用はなし。団体・部会・コミセン主催行事の情報が主。

（2）評価と課題

- 投稿経路・範囲・担当面での試験的運用（体制づくり）としては、大きな問題なし。
⇒ 「コンテンツ（画像や文章）はあるので投稿してほしい」人が増えることが必要。
特に「町内会」の利用は「原則、何でも受け付ける」とアピールして活用したい。
- 投稿範囲・担当面での「技術や手間の確保」（人材づくり）としては、二つの課題あり。
⇒ ① 「画像データの変換（pdf → jpg）」などの技術・手間で投稿担当を分担する形に。
② 「コンテンツ収集（取材）」に手間をどこまでかけるか＝ボランティア負担の問題。
- 総合すると、「何をどこから収集し、誰がどうやって投稿するか」をさらに具体化したい。

（3）体制移行への目標と計画案（即実践できそうなものから順に記載）

- ① 「活用できるもの」のリスト化と更新頻度アップ ⇒ 例えば「広報日の里」なども掲載。
- ② 「発信したいもの」の当番化と技術化の検討 ⇒ 一度、拡大会議のような形で検討する？
- ③ 「技能と人材の育成」 ⇒ 広報部会で計画・予算立てし、FB などのパソコン講座開催？
※ 予算案としては、「ボランティア→取材・更新の当番手当て」と「講座主催費」？